

『脂肪乳剤の本を執筆したので出版したいのですが・・・』

4月、新しい年度が始まりました。なぜ、4月が年度始まりなんだろうと思って調べると、いろいろな領域でいろいろな「年度」があるとのこと。会計年度、学校年度、いも年度、生糸年度、砂糖年度、大豆年度、など。国の法律で会計年度を4月1日から翌年3月31日までと決めたので、学校年度はそれに従ったとのこと。明治時代からだそうです。桜が咲く4月からとすると、なんか明るくなる、からなんでしょうか。4月1日、年度初めということで、今年もクリニックの中島さんから花を送っていただきました。ありがとうございました。

あっという間に桜が咲き、あっという間に散り、青々とした緑になりました。この変化、植物は生きているんだ、と実感します。気温もよくて、いい季節です。しかし、明るい話題がないのはなぜなのでしょう。すべてはロシア、プーチンによるウクライナ侵攻に帰する、です。物価が上がり、日本国民全体の生活が苦しくなっています。石油の値上げがすべての領域に影響しています。上がらないのは給料だけ、という声も聞こえます。それにしてもウクライナの人たちがかわいそう、21世紀にこんな悲劇が起こるなんて。でも、ウクライナだけじゃない、ミャンマーの人たちも大変です。台湾はどうなるんだろう、その後、日本も、なんて考えてしまいます。平和、平和と第二次世界大戦後、世界中で考えたはずなのに・・・。

4月に何かイベントはあった？と振り返っても、何もありませんでした。4月11日から千里金蘭大学食物栄養学科の講義が始まりました。4月24日に小浜へ釣りに行きました。4月29日からゴールデンウィークが始まります。これだけ。ゴールデンウィークに旅行に出かけるとか、そんな予定はありません。5月の最初の月曜日と金曜日を休めば10連休になりますが、休みはいらない！そんな生活です。

昨年はコロナが大変だったので、「ゴールデンウィーク」は「ホーム出んウィーク」にしようかと提言しましたが、何の役割も果たしませんでした。今年は「外へ出るウィーク」にしよう、国を始め観光業界が躍起になっています。5月中旬のコロナ陽性者数の急増が心配ですが、それでもいい、問題ない、と世の中が受け止め始めているようです。

東宝塚さとう病院で毎週木曜日に外来診察と栄養回診をしています。3月はコロナ第6波のために病棟の回診は休止していたのですが、4月1日から再開しました。看護師、管理栄養士、理学療法士と私の4人で全病棟を回り、リストアップしている患者さんについて、いろいろ考えます。静脈栄養と経腸栄養が必要な患者さんが対象ですが、食事が進まないから、との依頼も多く、そういう場合には静脈栄養と経腸栄養をうまく使うようにアドバイスします。しかし、循環器



↑新年度だから、とクリニックの中島さんが毎年、花を届けてくださいました。ありがとうございます。今年も、この花です。研究室に入ると、花の薫りがしました。



↑4月初旬は左のように桜が満開になりました。4月下旬になると、花が落ちて緑、緑、になりました。ふと気づくと、景色が一変していました。植物も生きている、動いている、なんですね。



↑駐車場から研究室までの道です。桜が散ると、4月下旬になるとサツキが咲きます。ぱっと咲いてぱっと散る、そんな感じ。サツキも動いています。



↑山梨の管理栄養士、飯島さんに送っていただきました。桜の富士山です。河口湖です。さすが、富士山の桜はすごいです。数字の「2」が見えます。

疾患が中心なので水分制限が必要な患者さんが多く、静脈栄養は避けたいと考えている主治医が多く、そういう意味でも悩ましい患者さんばかりです。胃瘻バッシングのために、胃瘻を毛嫌いしている患者さん・家族も多くて、これも悩ましいのですが、胃瘻造設症例は増えています。食べられない患者さんは、結構、長期間食べられないので、胃瘻を用いた SEN (補完的経腸栄養) が適応となるのですが、医学的適応、社会的適応、主治医、患者、家族の考えを判断しなければなりません。悩ましいところです。

昨年の12月から前歯の治療をしています。ずっと仮歯です。だから、前歯で噛み切る必要があるものは食べられません。奥歯で噛むようにしています。東宝塚さとう病院では弁当を注文するのですが、ずっと「目玉焼きハンバーグ弁当」です。これは、箸で小さくして食べられます。飽きない？と言われますが、週1回ですから、飽きません。しかし、阪大歯学部はほぼ月1回の受診なので、完治はいつのことやら、という感じ。半年以上かかります。早く、思うように噛める時が来てほしいと祈るような気持ちなんですけど・・・。

4月の唯一のイベントは、恒例の「釣り」でした。福井県小浜へ出かけました。釣ったのは「アジ、鯰」。かなり釣れました。今回は、北出くんを誘ったのですが、すぐに「参加します」との返信。かなり気合を入れて準備して参加してくれました。小浜に前泊し、4時に起床。5時半から出航。曇り空、雨降らず、波なし、暑くない、日焼けしない、との好条件でした。それなりに釣れました。数は数えていませんが、「良い型」のアジをたくさん釣りました。2匹を一度に釣り上げる、ダブルの時もありました。大きいアジを釣ったのですが、船の上に釣り上げる時に逃げられたり、写真を撮ろうと海中で泳がしていたら逃げられたり、反省もたくさんありましたが、いい釣りでした。次は太刀魚釣りに行きます、秋に。北出くんも気合十分、行くぞ！です。



↑この写真も、山梨の飯島さんが送ってくれました。河口湖大橋からの富士山です。きれい！数字の「2」がわかりにくくなっています。雪の量が減っているのでしょうか。



↑この富士山の写真は、同じく、山梨県の管理栄養士、深澤さんからの写真です。よく見ると、飯島さんの写真と同じ角度です。ここが撮影スポットなんじゃないかな。見に行きたい！



↑千里金蘭大学の食物栄養学科、臨床医学の講義です。小テストをしています。学生さんは必死で回答しています。私は、窓の外を見ながら写真を撮っています。講義室は7階なので、大阪の景色も見えます。

ゼン先生：先生、4月になりました。桜が咲き、散り、緑になりました。いい季節です。

小越先生：そうだな。いつまでもこの季節が続いて欲しいなあ。しかし、それも味気ない。四季があるから日本はすばらしいんだ。

ゼン先生：でも、夏は暑いし、冬は寒い。だから、春になって欲しい、秋になって欲しい、そう思うんです。

小越先生：しかしな、春も秋も短くなっていないか？寒い寒いと思っていたら、あっという間に「今日の気温は夏日です」となるだろう？

ゼン先生：本当、そうですね。春と秋が短くなっている、私もそう思います。

小越先生：地球温暖化の影響だろうな。

ゼン先生：間違いないでしょう。地球が怒っているんでしょう。

小越先生：そうだな。地球が怒っているのは間違いない。地球から石油ももらっているのに、ロシアのウクライナ侵攻の影響もあって、石油も大変なことになっている。

ゼン先生：昭和49年でしたか、オイルショックで節電、節電になりました。

小越先生：物価が上がって、トイレトペーパー騒動が起こったな。

ゼン先生：いろいろ影響がありました。石油の価格の影響ってすごいんですね。

小越先生：生活のすべての基盤だからな。

ゼン先生：私は、その時は浪人中で、愛媛県松山市の予備校に通っていました。夜の松山城のライトアップが消えたのを鮮明に覚えています。

小越先生：いい思い出か？

ゼン先生：その後、阪大に入れたので、いい思い出になりました。

小越先生：そうだな。二浪になっていたら、いい思い出にはなかっただろうな。

ゼン先生：予備校は大街道という松山市一番の繁華街の近くにあったんですが、その大街道に「二浪証券」という看板がありましたね。おそらくは「ふたなみ証券」と読むんでしょうが、「にろう証券」と読めるので、いやだな、と思っていました。

小越先生：ははは、二浪（にろう）証券か。いやな名前だな。

ゼン先生：はい。

小越先生：とにかく、ロシアのウクライナ侵攻を終わらせてくれないと、これからもどんどん状況は悪くなるのは間違いない。

ゼン先生：そうですね。ロシアは戦争だと言っていますが、戦争じゃなくて侵略です。ロシアが一方向的に悪いのは間違いありま

せんよ。

小越先生：そう。ロシアが侵略をやめなくてはならない、間違いない。

ゼン先生：先生、違う話題にしましょう。明るい話題にしましょう。

小越先生：明るい話題？あるのか？

ゼン先生：探しましょう。

小越先生：探さないで「無い」のか？

ゼン先生：そうですね。コロナ、ウクライナ・・・嫌な時ですから。

小越先生：しかし「しあわせはいつもじぶんのところがきめる、みつを」だろう？

ゼン先生：そうです。その通りです。

小越先生：そのしあわせはあったのか？

ゼン先生：ありました。今年も、千里金蘭大学の食物栄養学科で臨床医学を教えています。



↑4月24日。久しぶりに小浜へ釣りに行きました。この山は若狭富士です。もう何回、この景色の写真を撮ったのでしょうか。いい型です。



↑アジ釣りです。2匹を一度に釣り上げた、ダブルの写真。船頭さんが撮影するから、とポーズをとったところです。ダブルを何回だったかな。大飯の田中渡船のホームページに掲載すると言っていたけど。



↑われわれが乗った釣り船です。結構大きな船です。

小越先生：君は人気のない講師なんだろう？

ゼン先生：まあそうですけど。毎回、小テストをやっています。

小越先生：英単語のテストをやって、嫌われているんだろう？

ゼン先生：はい。でも、臨床の現場で必要だと私が思っている英単語は覚えてもらいたいです。管理栄養士の仕事に英語はいらぬと言う学生もいますが、私は必要だと思っています。

小越先生：君の考えを押し付けてはいけないんじゃないか？

ゼン先生：大学ですから、いいんじゃないですか。かつて、講演会やセミナーで略語についての試験をしていました。その際、例えば、TPNをtotal parenteral nutritionではなくて「トータルパレンテラルニュートリション」と記載する管理栄養士さんが多かったんです。カタカナです。やはり、ちゃんと英語で書いてほしいとは思っているの、そういう方針にしています。いろいろと批判はあるし、だから、講義の、学生による評価が低い、のかもしれませんが、まあ、それはそれでいいんです。

小越先生：まあいいだろう。それで、小さな幸せは？

ゼン先生：全部ではないんですが、1回目の小テストの内容を2回目で、2回目を3回目で試験すると、成績が明らかに上がってしましてね。ちゃんと復習してくれているんだ、と思っとうれしくなっているんです。

小越先生：なるほど。それは小さな幸せだ。

ゼン先生：そう思っているですよ。

小越先生：いいよ。小さな幸せだ。

ゼン先生：それから、学生は3年生なんですが、NPC/N比の計算をさせたら、ほとんどできませんでした。

小越先生：そりゃあそうなんじゃないか？君のデータでは、実際の現場で働いている人たちの成績はむちゃくちゃ悪かったんだろう？

ゼン先生：まあそうなんです。医療従事者2763人の結果ですが、正解率は10.2%でした。

小越先生：だろう？それを学生達に求めるのは酷だよ。

ゼン先生：でも、ちゃんと教えたらできます。2回目の試験では正解率はかなり上がりました。

小越先生：そうか。正解率は何%になったんだ？

ゼン先生：個人情報になるので言えませんが、かなりいいです。

小越先生：まあいいだろう。何が言いたいの？

ゼン先生：静脈栄養や経腸栄養を実施する上で必要な教育が不十分なんじゃないでしょうか。

小越先生：それは言い過ぎなんじゃないか？

ゼン先生：そうかもしれませんが。管理栄養士は食の専門家だから、静脈栄養や経腸栄養は必要ないと考えておられるのかもしれませんが、でも、これからの管理栄養士は、静脈栄養も経腸

栄養もできるようになる必要があると思うんです。

小越先生：オレもそう思うけど。大学にはそれぞれ教育方針というものがあるんだから、余計な事は言わないほうがいいぞ。

ゼン先生：そうですね。そうかもしれませんね。大きな声では言わず、私なりの教え方をしたいと思います。臨床医学の中で静脈栄養や経腸栄養に必要な医学も教える、それが私の方針だ、学生さんには宣言しています。

小越先生：いいんじゃないか。ところで、今回はこんな話で終始するのか？今回は101回目だろう？君の好きなRESTARTとしないといけないんじゃないか？

ゼン先生：RESTART・・・確かに、そうしないといけませんね。

小越先生：ということで、明るい話題にしよう。

ゼン先生：と、思っ、いろいろ考えたんですが、明るい話題が、本当に・・・ないんです。いろいろ考えたんですが。

小越先生：そうか。それじゃあ、少しは前向きになりそうな話題はないのか？

ゼン先生：そういうふうには受け取ってもらえるかわかりませんが・・・。脂肪乳剤の本を書きました。



↑釣り上げてご機嫌！の写真です。北出くんは、本当に研究熱心ですね。私？釣れたらうれしい、それだけです。後ろも見てください。波がない、穏やかな釣り日和でした。雨降らず、カンカン照りではない、波穏やか、日焼けもしない、でした。



↑釣果です。3人でこれだけ釣りました。型もよかったのですよね。

小越先生：へええ。脂肪乳剤だけの本なのか？

ゼン先生：はい。脂肪乳剤ナビゲータという名称にしたいと思っています。

小越先生：またナビゲータか。

ゼン先生：はい。この本を読んだら、脂肪乳剤の使い方についてはほぼわかる、そんな内容にしたつもりなので。

小越先生：よく考えると、脂肪乳剤の本って出版されていないだろう？

ゼン先生：1996年に木村信良先生が「脂肪静注の試み」を出版しています。それだけです。

小越先生：木村先生がどういう苦勞をしてイントラファットの開発をしたのか、そんな内容だろう？

ゼン先生：そうです。歴史です。

小越先生：谷村弘先生や入山圭二先生は出版していないのか。

ゼン先生：しておられません。

小越先生：それなのに、君が脂肪乳剤の本を出版するのか？

ゼン先生：実は、まだ、出版できるかどうか、わからないんです。出版社が受けてくれるかどうか、です。

小越先生：売れない？

ゼン先生：そう・・・なんでしょう。

小越先生：前回と同じような発言になるけど、売れない本は出版社も出版してくれない。ビジネスだから、だな。

ゼン先生：そうなんでしょう。でも、臨床栄養の領域では大事な本になる、そう思って、時間をかけて執筆しました。とにかく、出版してくれる出版社を探します。

小越先生：この本の出版は、ビジネスじゃなくて学術活動だから。どんな内容なんだ？

ゼン先生：本の目次を掲載します。まずは脂肪乳剤開発の歴史です。

小越先生：Intralipidを開発したスウェーデン、カロリンスカ大学のWretlingか？

ゼン先生：Wretlingより先に、東北帝国大学の山川教授がヤノールを開発した、京都大学の日笠教授がファトゲンを開発した、それも記載しています。

小越先生：そうだったな。日笠先生のデータを参考にしてWretlingが大豆油からイントラリピッドを開発したんだ、谷村先生に聞いたことがある。

ゼン先生：そのあたりの歴史も調べました。それから、日本の脂肪乳剤の使用状況について、アンケート調査やNDBのデータから解析してみました。

小越先生：脂肪乳剤の使用頻度は非常に低いんだな。

ゼン先生：それは間違いありません。それから、脂肪乳剤の代謝

についても記載しましたが、これは、ほぼ、入山先生の歴史です。

小越先生：なるほど。入山先生が脂肪乳剤代謝を解明したんだからな。

ゼン先生：それから、脂肪乳剤中のリン、大豆タンパク、ビタミンK、フィトステロール、ビタミンEについてもいろいろ調べました。

小越先生：そういう内容をきちんと記載している資料って、少ないんじゃないか？

ゼン先生：いろいろ調べました。古い論文もいろいろ調べました。

小越先生：それは大事な記載になるな。

ゼン先生：それからですね。必須脂肪酸欠乏症、脂肪肝、NPE/N比の調整、これらについても細かく記載しました。

小越先生：脂肪乳剤は必須脂肪酸欠乏症にならないようにするために投与しなければならない、としか考えていない医者が多いからな。

ゼン先生：それから、脂肪乳剤を投与するとCO₂発生量を抑制できる、と考えられていますが、これについても解析してみま



↑ JR 小浜駅のそばのホテルに宿泊しました。この杉田玄白記念公立小浜病院がすぐ近くだったので、写真を撮りに行きました。前回の釣りの時もここに来て写真を撮ったのですが、こんなに駅に近いとは知りませんでした。



↑ JR 小浜駅にこの浅井家三姉妹の看板がありました。なぜ？と思って調べると、次女のお初が嫁いだ京極高次が若狭小浜の城主になったからだとのこと。姉は秀吉の側室の茶々(淀殿)、妹は2代将軍徳川秀忠の正室となったので、お初は目立たなかったようですが、小浜では大事な役割を果たしていたのです。この顔の部分には、観光客が顔を出して写真を撮るようになっていました。小浜は寂しい街だと感じました。商店街も人通りはほとんどありませんでした。何年後かに、ここに新幹線が通るのですよね。大丈夫かなあ。

した。

小越先生：呼吸商が、炭水化物が1.0なのに対して脂肪は0.7だから、CO₂発生を30%抑制できるんだろう？

ゼン先生：ほとんどの人がそう思っているようですが、計算してみると、そこまで抑制できません。その上、TPNの時に脂肪乳剤を投与しても、CO₂発生は抑制できません。

小越先生：へええ、そうなのか。オレも知らなかった。そういうこともきちんと記載しているんだな。

ゼン先生：はい。それから、脂肪乳剤の投与速度、どれだけの量まで投与できるのか、10%製剤と20%製剤はどちらを使うべきか、側注の形で投与してもいいのか、などもです。

小越先生：側注は君のデータから、可能なんだろう？

ゼン先生：そうです。ちゃんと解説しました。それから、投与ラインにも、DEHPやポリカーボネートの問題があります。

小越先生：そんなことにも注意しなければならないのか？

ゼン先生：知っておけばいい、という内容です。知らない人が大部分です。

小越先生：君の得意な、感染の問題については、もちろん、詳しく書いたんだろう？

ゼン先生：もちろんです。脂肪乳剤を投与すると感染しやすい、そう考えている人が多いんですが、ちゃんと管理すれば感染は問題にならない、そんな記載をしています。

小越先生：在宅での脂肪乳剤使用量が非常に少ないと聞いているけど。

ゼン先生：そうですね。診療報酬として外来処方が一時、できなくなりましたが、それについては、私が日本在宅医療学会と一緒に厚労省に説明に行って、できるようにした、その経緯も書きました。

小越先生：なるほど。それもちゃんと記録として残すべき内容だ。

ゼン先生：それから、CVポートを使って脂肪乳剤を投与すると、脂肪乳剤に関連した沈殿物でカテーテルが閉塞することがあります。そのメカニズム、対応についても書きました。

小越先生：そういえば、脂肪乳剤でカテーテルが閉塞したという話は聞いたことがある。

ゼン先生：この問題はCVポートを使い始めた頃から解決したと思っていたんですが、メカニズムも予防法もほぼ解明できました。論文にして発表したのだから、その内容を解説しています。

小越先生：むかーし、名古屋市立大学の竹山先生が、ヘパリンと2価の陽イオンが脂肪乳剤を凝集させるという発表をしていたけど。

ゼン先生：その問題も実験的に証明して論文にしました。それ

も、ちゃんと解説しています。

小越先生：へええ、そこまでやったか。

ゼン先生：それから、CVポートの内室の構造と沈殿物ができるメカニズムについても研究しました。沈殿物ができにくいというか、洗浄しやすい構造のCVポートをニプロと共に開発したんですが、その内容についても解説しています。

小越先生：へええ、CVポートの内室構造にも問題があったんだ。知らなかった。

ゼン先生：それから、最後に、海外で使われている、MCT配合脂肪乳剤、オリーブ油配合脂肪乳剤、魚油配合製剤などについても、簡単ですが、解説しました。

脂肪乳剤ナビゲータ：目次

プロローグ：なぜ、日本では脂肪乳剤が使われないのか？その問題点と対策

第1章 脂肪乳剤に対する日本の医療者の考え方と脂肪乳剤の歴史

- 【1】日本の栄養管理の現状と脂肪乳剤
- 【2】日本への静脈栄養導入の歴史
- 【3】脂肪乳剤開発の歴史
 - ①世界初の脂肪乳剤は日本で開発された
 - ②イントラリピッド：Intralipidの開発と日本の対応、日本製脂肪乳剤

第2章 日本では脂肪乳剤はどのくらい使われているのか

- 【1】脂肪乳剤に関する全国アンケート調査結果
 - 脂肪乳剤の投与開始時期・脂肪乳剤の投与目的
- 【2】脂肪乳剤の使用状況に関する調査結果
 - データ1：林らの、薬剤師を対象とした調査結果
 - データ2：静脈経腸栄養管理指導者協議会の調査結果
 - データ3：在宅医療における脂肪乳剤使用状況に関するアンケート調査結果
 - データ4：医学中央雑誌での調査結果
 - データ5：NDB (National Data Base) オープンデータからの解析
- 【3】調査結果からの、本邦における脂肪乳剤使用状況についての推察

第3章 脂肪乳剤とは（代謝、製剤の特徴）

- 【1】人工脂肪粒子の血中代謝
- 【2】脂肪乳剤中のリン
- 【3】脂肪乳剤中の大豆タンパク
- 【4】脂肪乳剤中のビタミンK
- 【5】脂肪乳剤中のフィステロール
- 【6】脂肪乳剤使用上の問題点—添付文書から考察する

第4章 脂肪乳剤を投与する目的

- 【1】必須脂肪酸欠乏症 (essential fatty acid deficiency: EFAD) 予防
- 【2】有効なエネルギー源として
- 【3】脂肪肝 (fatty liver) の抑制
- 【4】NPE (non-protein energy) /N比の調整
- 【5】CO₂発生量の抑制
- 【6】末梢静脈栄養における静脈炎の予防

第5章 脂肪乳剤の投与方法・管理方法

- 【1】脂肪乳剤の投与速度
- 【2】10%製剤と20%製剤、どちらを選択する？
- 【3】投与経路の選択
- 【4】TPNラインに側注してTPN輸液と並列で投与できることを証明した実験
- 【5】脂肪乳剤の投与経路について (DEHP, ポリカーボネート)

第6章 脂肪乳剤投与と感染

- 【1】脂肪乳剤を投与した場合にはカテーテル関連血流感染症発生頻度が高い？
- 【2】脂肪乳剤中での微生物増殖に関する報告・実験
- 【3】脂肪乳剤の投与に使用する輸液ラインの交換頻度について

第7章 脂肪乳剤とカテーテル閉塞

- (長期間CVポートから脂肪乳剤を)投与するとカテーテルが閉塞する恐れがある！
- 【1】長期CVポート使用症例における脂肪乳剤関連閉塞物の解析
- 【2】脂肪乳剤に関連した閉塞物が形成されるメカニズム
- 【3】ヘパリンロックが脂肪乳剤を凝集させてCVポート閉塞の要因となる！
- 【4】新しいCVポートの開発

第8章 在宅における脂肪乳剤の使用

- 【1】2014年4月 外来で脂肪乳剤を処方できなくなった！
- 【2】2016年4月 外来で脂肪乳剤を処方できるようになった！
- 【3】在宅栄養管理においても脂肪乳剤は投与するべきである
- 【4】在宅での脂肪乳剤の投与方法

第9章 日本における3-in-1製剤

- 【1】TPN用3-in-1製剤：ミキシッド
- 【2】PPN用3-in-1製剤：エネフリード

第10章 海外で使用されている脂肪乳剤と日本への導入

- 【1】海外で使用されている脂肪乳剤とその特徴
- 【2】海外で使用されている脂肪乳剤を本邦にも導入するべきである

小越先生：それで、この本を出版する目的はどういうことになったんだ？

ゼン先生：結論とっていいと思うんですが、非常に有効な脂肪乳剤が海外では使われているんです。なのに、日本では、1960年頃に開発されたイントラリピッドとほぼ同じ組成のイントラリポスしか使えないんです。大豆油製剤だけなんです。魚油配合のオメガベンや4種の油を配合したSMOFlipidを導入しなければならない、そんな発言があります。

小越先生：そりゃあそうだろう。

ゼン先生：でも、これだけ日本で脂肪乳剤の使用量が少ないと、企業としても新しい製剤を導入できません。

小越先生：ビジネスとして成り立たないからな。

ゼン先生：そうなんです。だから、もっと脂肪乳剤の本質、意義、適正な使い方を理解して、脂肪乳剤を使おう。それが、有効な栄養管理につながるんだから、という内容にしたつもりなんです。

小越先生：なるほど。そこまでつっこんだ内容にしたんだな。

ゼン先生：そうしたつもりです。代謝的にも、適正に脂肪乳剤を使うと有効な栄養管理ができるんです。なのに、めんどくさい、感染しやすい、敗血症症例には使えない、などの理由をつけて使わない。それはおかしい。もっと脂肪乳剤について理解して欲しい、そう思っています。もっと脂肪乳剤が使われるようになると、企業としても利益が上がるから、新しい脂肪乳剤を導入できるようになるんです。まずは、脂肪乳剤をもっと使う、これが大事なんです。

小越先生：簡単に解説してもらったけど、大事な内容ばかりだ。きっと、どこかの出版社が手を上げてくれるよ。出版されたら、購入して読もうと思ってくれる人がいると思う。

ゼン先生：ありがとうございます。もう少し、内容を練り直ししながら、出版してくれる出版社が出てくるのを待つことにします。



↑私の著書の一部です。毎回、こうして掲載したら読もうと思う人が出てくるかも。

お知らせ 第4回Medical Nutritionistセミナー

第4回 Medical Nutritionistセミナー

朝からまるまる2日間、栄養管理の実践的勉強

- 日時：2022年8月6日(土曜日)午前9時から18時
8月7日(日曜日)午前9時から16時
- 場所：草津、ニプロ研修センター iMEP (JR東海道線 南草津駅前)
- 参加費：8000円(JAN-VIC、PEN-Leaders会員)、10000円(非会員)
(1日だけ参加の場合は会員5000円、非会員6000円)
- PEGも開腹胃瘻も空腸瘻も、CICCもPICCもCVポートも、エコー法もカットダウン法も、挿入方法も管理方法も、ビデオと写真で解説します
- 静脈栄養の処方も、経腸栄養剤の処方・選択も、感染対策も理解できます
- 本当に臨床の現場に即した内容です
- 初心者から専門的に勉強したい方まで、本気の方の参加をお待ちしております
- IPエコーを用いたPICC挿入技術のハンズオンセミナーもあります
- 質疑応答もしっかりやります。あらかじめの質問、セミナー後の質問、当日に回答できなければ後日メールで回答します

【今回のまとめ】

1. 4月は新しい年度の始まり。でも、明るい話題が見つかりません。コロナも落ち着きません。しかし、コロナは次の段階に入りつつあるのかもしれないかもしれません。コロナのために落ち込んだ学術活動を再開しなければ。
2. ロシアのウクライナ侵攻、これからどうなっていくんでしょう。影響は世界中に及んでいます。日本も物価高などで生活に大きな影響が出てきています。ロシアを止めなくては！
3. 千里金蘭大学、食物栄養学科での臨床医学の講義も始まりました。静脈栄養・経腸栄養の実施に必要な医学も講義することにしています。静脈栄養・経腸栄養もできる管理栄養士になって欲しいのです。
4. 脂肪乳剤の本を執筆中で、ほぼ完成しています。でも、出版してくれる出版社が見つかりません。どうせ、売れないから？ビジネスとして成り立たないから、かもしれません。
5. でも、学術的には意義ある本だと思っています。もう少し、練って、出版してくれる出版社を見つけます。必ず出版しますので、その際はよろしくお祈りします。